
**FAX・メール・手書きで届く注文書は、
担当AIが毎朝1枚ずつ読み、
受注の表に入れる。社長は印の付いた
注文を確かめるか決めるだけ**

AIエージェントの動き方の一例（見本：架空の食品卸）

株式会社SeKnAck

見本のため、注文書・取引先・品目・数はすべて架空です。FAX・電話・メールはどこへも送っていません。

取引先ごとに形も呼び方も違う注文書を毎朝手で打ち込むと、
時間がかかり、いつもと違う数や読めない所を見落としやすい

食品卸で、毎朝の注文の受け付けについて起きること（見本の会社の例）

	1 届き方がばらばら	2 呼び方がばらばら	3 いつもと違う数に気づきにくい
起きていること	■ 注文はFAX・メール・手書きのメモで届き、形は取引先ごとに違う 今回の見本数 (みなと食品・10月17日の朝) 届いた注文書8枚 取引先8軒 受注の行41行	■ 「オニオン」は玉ねぎ、「合挽ミンチ」は合いびき肉、ホテルの「CS」はケースと、お店ごとに呼び方が違う ■ 品目表の品番に直しながら、毎朝1枚ずつ打ち込んでいた	■ いつもの5倍の数も、書き間違いか宴会か、注文書だけでは分からない ■ にじんで読めない数を、いつもの量で埋めてしまいやすい
そのため	➢ 事務の2人が、毎朝の打ち込みに時間を取られる	➢ 品番の当てはめ違いが、配送の間違ひになる	➢ 確かめるべき注文を、そのまま受けてしまう

注：届き方・呼び方の例・これまでの打ち込みは見本の作業場の受注の決まりから、注文書と行の数は今回の見本の注文書から

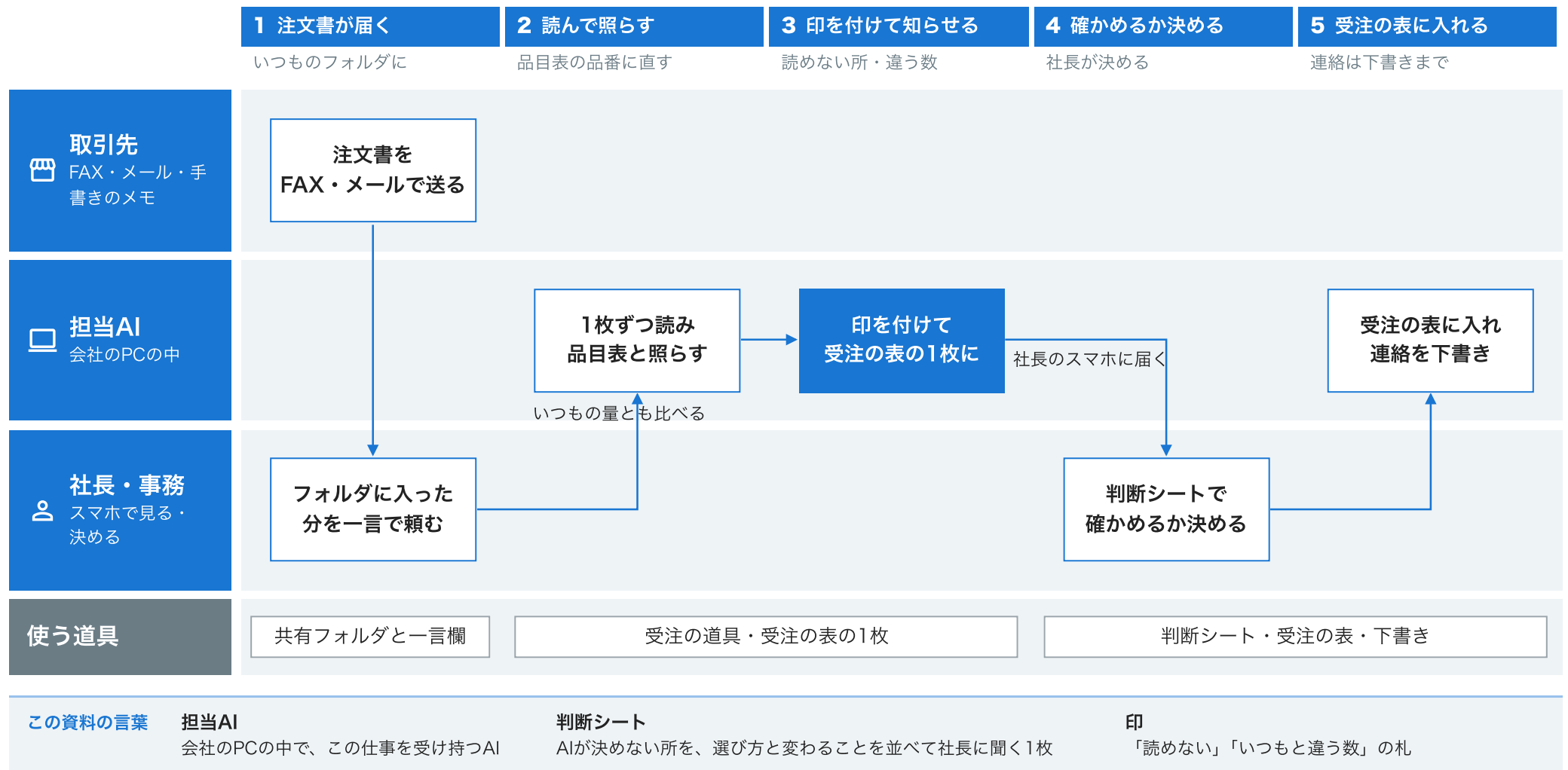
出所：見本の作業場（見本の会社・取引先・品目・数は架空）

全体の流れ

社長は印の付いた注文を確かめるか決めるだけで、 読み取り・打ち込み・連絡の下書きは担当AIが引き受ける

注文書が届いてから、受注の表に入るまで（見本：架空の食品卸）

— 実線：今回の流れ ■ 主役の仕事



注：番号は次のページから説明する順。FAXは受けた時に、メールは届いた時に共有フォルダに入り、手書きのメモは配送の人が写真に撮って入れます。取引先への連絡は、社長か事務の方が行います

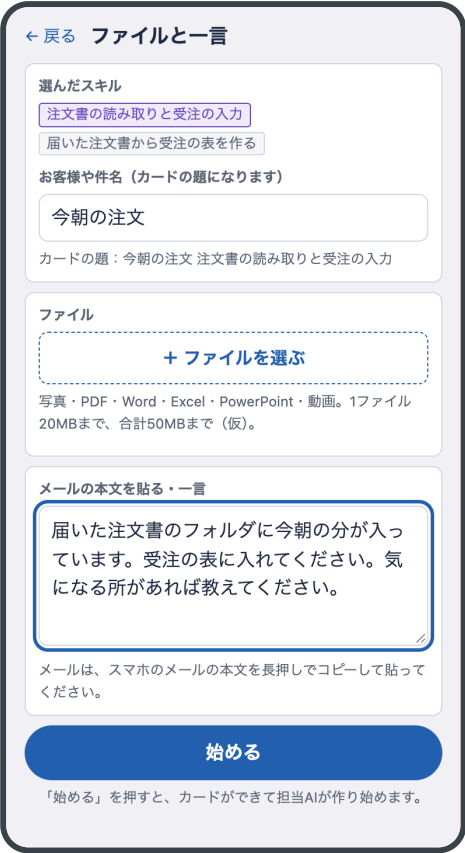
注文書はいつものフォルダに入れておくだけで、担当AIが一言で8枚を数え、品目表やいつもの量と合わせて1枚ずつ読む

スマホの画面（左：共有フォルダ、中：一言欄）と、頼んでから担当AIがすること（右）

1 いつものフォルダに届いた8枚



2 一言を書いて始める



頼んでから担当AIがすること	今回の見本で分かったこと
■ 一言欄 ➢ 「届いた注文書のフォルダに今朝の分が入っています。受注の表に入れてください。気になる所があれば教えてください。」と書いて始める	看板の「注文書の読み取りと受注の入力」から。添付はなし
■ 届いた注文書 ➢ 共有フォルダ「届いた注文書」の分を、道具で数える	8枚：FAX 5・メール 2・手書きのメモ 1
■ 決まりと資料 ➢ 受注の決まり（読み方・印を付ける時・誰が決めるか）と、品目表・取引先の一覧・いつもの量を読む	品目表33品・取引先8軒・いつもの量 41行
■ 読む ➢ 注文書を1枚ずつ開き、FAXの画像・メールの本文・手書きのメモの写真を読む	8枚すべて

注文書はいつものフォルダに入れておくだけ。毎朝、一言を書いて「始める」を押します

注：見本のため、注文書・取引先・品目・数はすべて架空です。FAXは画像、メールは本文、手書きのメモは配送の人が撮った写真です

出所：見本の作業場で、担当AIの「注文書の読み取りと受注の入力」（2026年10月17日）を実際に動かした結果（見本の会社・取引先・品目・数は架空）

2 読み取る

担当AIは8枚を同じ決まりで読んで品番に直し、いつもの量と比べて、いつもと違う数と読めない所にだけ印を付ける

41行のうち5行を、同じ見方で並べた結果（印の2件と、そのまま受ける行の例）

注文書と資料から読んだ物 印を付けた所

	書いてある名前と数	品目表の品番	いつもの量と比べる	結果
洋食屋 ポラリス FAX	「オニオン 10kg箱」 3	Y01 玉ねぎ 3箱	いつも2箱（範囲内）	そのまま
洋食屋 ポラリス FAX	「合挽ミンチ 1kg」 4	N06 合いびき肉 4パック	いつも3パック（範囲内）	そのまま
ホテル汐風 レストラン FAX	「鶏卵 Mサイズ 100個入」 2 CS	T02 卵 M 2ケース	いつも2ケース（範囲内）	そのまま
居酒屋 灯台 FAX	「鶏もも (2kg)」 25パック	N03 鶏もも 25パック	いつも5パック → 5倍	いつもと違う数
寿司 まさ 手書き	「むきえび」 (にじんで読めない)	S03 むきえび 数は空	いつも2袋（推測で埋めない)	読めない

注：いつもと違う数は、取引先のいつもの量の3倍以上か3分の1以下。読めない所は推測で埋めません（受注の決まり）。残りの39行は、いつもの量の範囲で読めています

出所：見本の作業場で、担当AIの「注文書の読み取りと受注の入力」（2026年10月17日）を実際に動かした結果（見本の会社・取引先・品目・数は架空）

3 元の注文書

受注の表の1枚は、取引先の行を押すと元の注文書が出るので、社長は印の付いた数をその場で確かめられる

1枚の印の付いた注文（左。青い枠は社長が決める所）と、行を押して出る元の注文書（右）

社長が決める所

1枚の「印の付いた注文」（2件）

いつもと違う数	居酒屋 灯台 鶏もも (N03) いつもは5パック	25パック (5倍)
読めない	寿司 まさ むきえび (S03) いつもは2袋	にじんで読めない

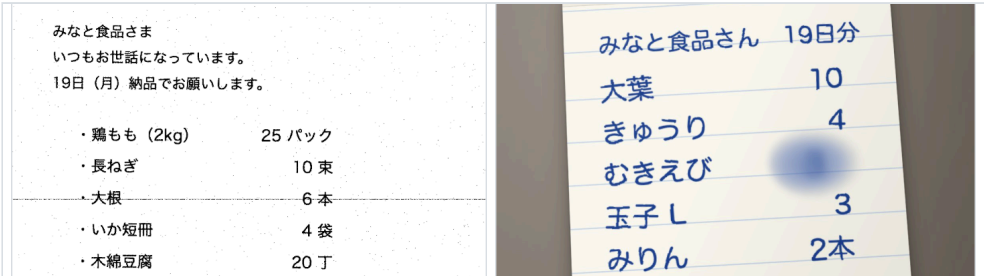
元

取引先の行を押すと、FAXの画像・メールの本文・手書きのメモの写真がそのまま出る

数

注文書8・受注の行41・印2。品名は品目表の名前に直してある

拡大：取引先の行を押した所（元の注文書）



居酒屋 灯台のFAX。「25 パック」とはっきり読める

寿司 まさの手書きのメモ。むきえびの数がにじんでいる

注：画面は社長が決める前の1枚。見本の注文書には「見本（架空の注文書）」と入れています

4 1枚で決める

印の付いた注文を確かめるか受けるかは、選び方と変わることを並べた1枚で、社長が選ぶだけで済む

判断シートの問い1（左）と、2つの問いで社長が選んだ案の中身（右。シートの選択肢・選ぶと変わる事・理由から）

1 判断シートの問い1

Q1 居酒屋 灯台の鶏もも (25パック、いつもは5パック) を、確かめるか・そのまま受けるか

字のはっきり読めますが、いつもの5倍で、「週末の前は少し多め」の「少し」を大きく超えている。

● **A 確かめる** **おすすめ**

選ぶと変わること：受注の表に「確認中」で入ります。灯野さんへのFAXの文をAIが下書きし、送るのは社長が事務の方です。返事が来たら事務の方が数を直します。

○ **B そのまま25パックで受ける**

選ぶと変わること：受注の表に25パックで入ります。灯台への連絡はありません。仕入れの量が、いつもより20パック分増えます。

○ **C 別案（下の窓に書く）**

選ぶと変わること：書いていただいた内容のとおり受注の表と連絡の下書きを

	Q1 おすすめ・社長が選んだ 居酒屋 灯台の鶏もも 25パック	Q2 おすすめ・社長が選んだ 寿司 まさのむきえび（読めない）
選んだ案	■ A 確かめる	■ A 確かめる
選ぶと変わる こと	■ 受注の表に「確認中」で入る。灯野さんへのFAXの文をAIが下書きし、送るのは社長か事務の方	■ 受注の表に「確認中」（数は空）で入る。正木さんへの電話で聞くことのメモをAIが下書き
理由	■ 5倍は仕入れの量が大きく変わる数で、書き間違いなら余りが出る。納品は19日で確かめる時間がある	■ 注文書から数が読めず、受ける数の根拠がない。まさは電話で確かめられる
次にすること	➤ 灯台へ数を確かめるFAXの文を下書き	➤ まさへ電話で聞くことのメモを下書き

注：社長の答えは Q1 A・Q2 A です。どの問いにも「そのまま受ける」「数を決めて受ける」と、下の窓に書く別案があります。確かめるか受けるかを決めるのは社長で、AIは推測やいつもの量で数を埋めません

出所：見本の作業場で、担当AIの「注文書の読み取りと受注の入力」（2026年10月17日）を実際に動かした結果（見本の会社・取引先・品目・数は架空）

5 受注の表がそろう

社長が答えると、受注の表に41行が入り、 確かめる先への連絡の下書き2つがそろう

社長のスマホの画面（答えてから、受注の表と下書きがそろうまで。順に1～3）

1 判断シートで答える

Q2 寿司 まさのむきえび（数が読めない、いつもは2袋）を、確かめるか・そのまま受けるか

数の所がにじんでいて、メモから数が分かりません。AIは推測やいつもの量で数を埋めません。

☒ A 確かめる

おすすめ

選ぶと変わること：受注の表に「確認中」（数は空）で入ります。正木さんへの電話で聞くことのメモをAIが下書きし、電話は社長が事務の方がかけます。

☐ B 数を決めて受ける（下の窓に何袋かを書く）

選ぶと変わること：書いていただいた数で受注の表に入ります。まさへの連絡はありません。

2 受注の表に41行が入る

三 受注の表

み

10月16日（金）受付 10月17日（土）受付

取引先 8 行 41 確認中 2

みなと保育園 給食室 納品 10月19日（月）・6行

J-1017-001	じゃがいも Y02・10kg箱	1箱	受注
J-1017-002	にんじん Y03・5kg箱	2箱	受注
J-1017-003	玉ねぎ Y01・10kg箱	1箱	受注
J-1017-004	鶏むね N04・2kgパック	3パック	受注
J-1017-005	牛乳 T03・1L	24本	受注
J-1017-006	豆腐 木綿 T04・1丁	8丁	受注
居酒屋 灯台 納品 10月19日（月）・5行			
J-1017-007	鶏もも N03・2kgパック	25パック	確認中

10月17日受付に41行。居酒屋 灯台の鶏ももと寿司
まさのむきえびの2行は「確認中」

3 確認の連絡の下書き

確認の連絡の下書き（2件）

FAX 居酒屋 灯台 まだ送っていません

居酒屋 灯台 灯野様

いつもお世話になっております。みなと食品でございます。
10月17日 0時47分にFAXでいただいた、10月19日（月）納品分のご注文について、1点だけ確かめさせていただきます。

・鶏もも（2kgパック） 25パック

いつもは5パック前後でいただいているため、念のためお数をお伺いしております。25パックであれば、そのままご用意いたします。お手数ですが、このFAXの下欄にお数をご記入のうえ、ご返信いただけますと幸いです。

鶏もも（2kgパック）：_____パック

灯台へのFAXの文と、まさへ電話で聞くことのメモ。
どちらも下書きで、まだ送っていない

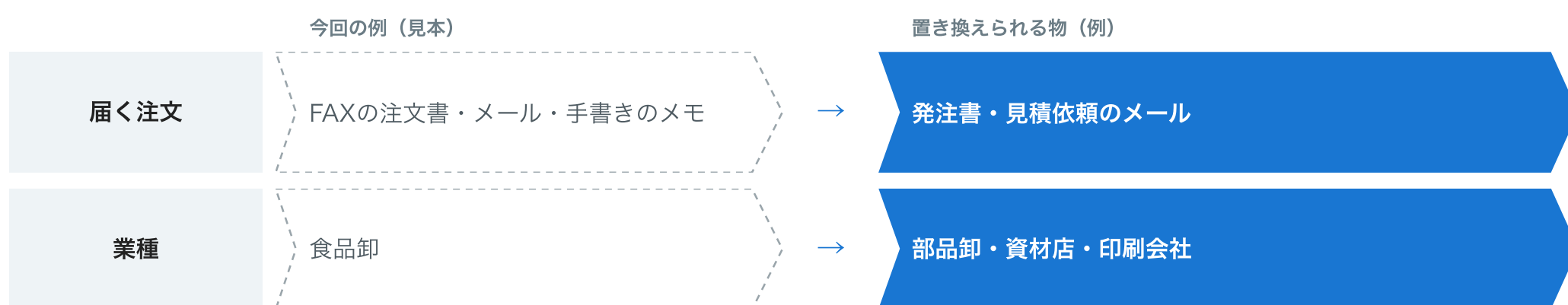
注：時間の目安：手作業で約50分の注文書の打ち込みと照らし合わせが、確認の約5分になります（見本の条件での試算。担当AIの作業は約3分（見本の撮影で実測）、手作業は注文書8枚・受注41行の打ち込み1行1分＋品目表との照らし合わせ約10分で計算）。取引先へのFAX・電話は社長が事務の方が行い、担当AIはどこへも送りません。受注の表は練習用の画面で、本番は御社のいつもの受注の表につながます

出所：見本の作業場で撮影したスマホの画面（見本の会社・取引先・品目・数は架空）

食品卸は一例で、部品卸や資材店、印刷会社など、 発注書や見積依頼のメールを受ける仕事に合わせて作り直せる

今回の見本で使った物と、御社に合わせて置き換えられる物

□ 今回の例 ■ 置き換えられる物



ここでお見せしたのは一例です。「ここをこう変えたい」をお聞かせください。

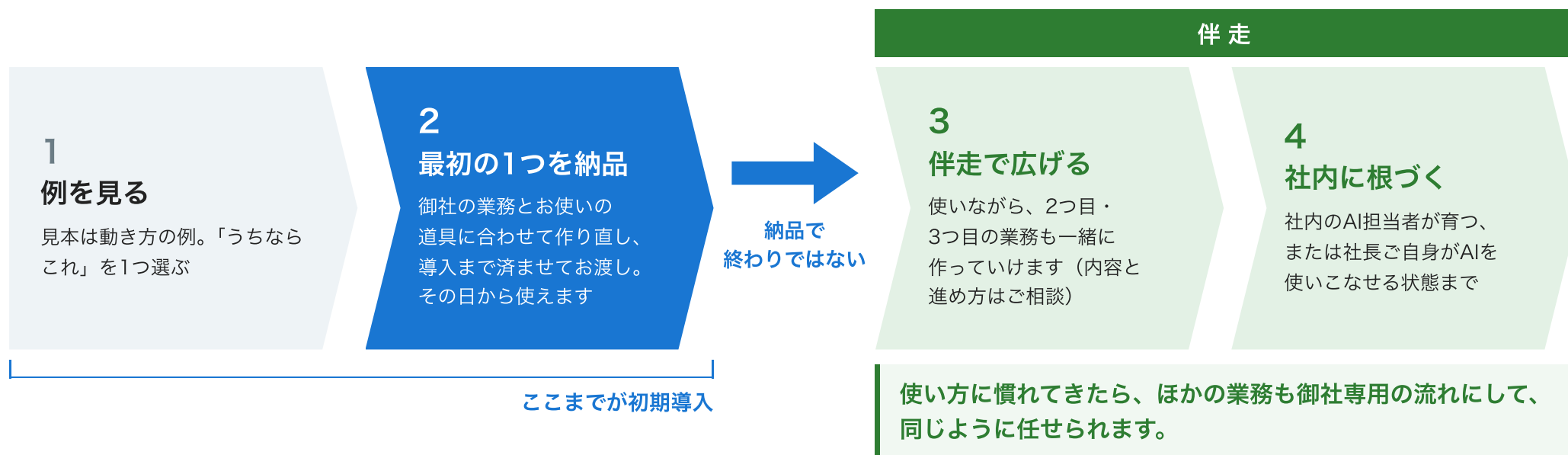
注：右の列は置き換えの例です。取引先ごとに形の違う注文や依頼を読み、決まった表に入れて、確かめる所だけを人に聞く仕事なら、同じ形が使えます。実際にどれを使うかは、お話を伺ってから決めます

導入とその先

最初の1つを使える状態で納品し、その先は伴走で一緒に広げていく

最初の1つの納品から社内に根づくまでの4段と、お問い合わせ先

納品までと、その先の伴走



お問い合わせ先

資料のご請求・お問い合わせ

ai-setup@seknack.com

株式会社SeKnAck

注：伴走の内容と進め方は、ご相談のうえ決めます。

出所：株式会社SeKnAck（このページまでの画面と数字は見本の作業場の物。見本の会社・取引先・品目・数は架空）